



再生する旧県立美術館は、どんな性格？ どんな人だったら、あなたは付き合いたいですか？

2013年の閉館から5年。旧県立美術館は2020年をめどに、芸術文化によるまちおこしの拠点「(仮称)秋田市文化創造交流館」として再生に向けて動き出しています。まだ蒸し暑さの残る8月26日には、ワークショップ「せばなるあきた」の第2回目が山王一丁目食堂（秋田市役所2階）で開かれました。旧県美のあり方や態度について話し合うために、20～70歳代の44名が参加。ファシリテーターからのちょっと変わった問いかけに戸惑いながらも、活発に繰り広げられたワークショップの様子をレポートします。



NO.2

旧県美の利活用を話し合う「せばなるあきた」は、前回に続き、篠原幸子さんのファシリテーションと平元美沙緒さんのグラフィックレコーディングで進行。参加者ひとりひとりが簡単に自己紹介した後、今回のワークショップの目的と、旧県美を含めて秋田市で進行している街づくりの計画について、アーツセンターあきたから紹介させていただきました。そしていよいよ、ワークショップのスタートです！

ファシリテーターは
このお二人！



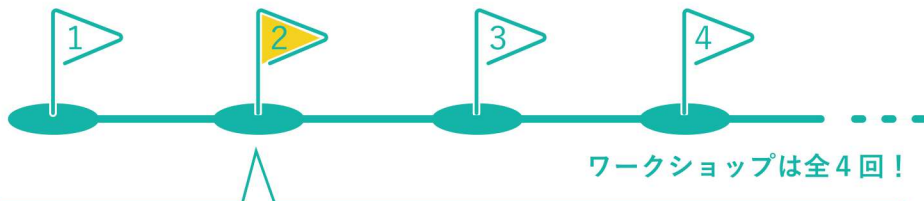
篠原 幸子
(NPO 法人場とつながりラボ home's vi)



平元美沙緒
(まちづくりファシリテーター)

「せばなるあきた」ワークショップの目的

- 旧県美を活用することで実現したい、「ありたい」まちの未来を考える。
- それを実現するために…旧県美の「こんな場所になればいい」「こんなのがあればいい」を考える。
- ここにいる皆さんの関係性を深める。
- 旧県美とその周辺がにぎわうワクワクを考える。



第2回目のゴール

- 旧県美のあり方ができている。
- ここにいる皆さんの関係性が少し深まっている。
- 3回目も来よう・誰かを誘おう・この後の懇親会に出ようと思っている。

8/26 せばなるレポート

旧県美の「あり方」とは

2017年度は、天井の高い独特の空間を持つ旧県美の場所利用の可能性を話し合い、それを改修設計に生かすワークショップを行いました。2018年度は施設のあり方や運営方法、事業計画といった運営管理計画に意見を反映させていきます。

そこで重要になるのが、旧県美の「あり方」です。旧県美は市民に対して、どんな態度、どんな振る舞いで接するのか。その蓄積が、施設の姿として見えてくるようになるからです。今年度のワークショップではまず、旧県美の施設としてのあり方を大切にしたいと考えました。

自分の未来を1枚の絵に

ウォーミングアップでちょっと体をほぐした後、篠原さんが問いかけたのは、「皆さんひとりひとりが思う、ありたい未来とはどんな未来ですか？」。自分の未来を考えた先に、旧県美の未来を描いていく方法です。

10年後、20年後に生き生きと暮らしている自分の未来を想像して、それがどんな未来なのか1枚の絵にしてもらいました。未来を思い描きながら、ポジティブな感情になったのか、しみじみとした感情になったのか。どんな感情が湧き起こってきたかは人それぞれ。その感情や気づきを大切に、グループ内でありたい未来を語り合いました。

どんな態度や振る舞いの人と付き合いたい？

絵を描いたり、タイトルを付けたり、説明する言葉を付け足したりしながらワークショップは進みました。故郷のこと、街のこと、家族のこと、趣味のこと、年齢のこと…。篠原さんの問いかけに答えていくうちに、自分の未来と、その周辺の未来が徐々に見えてきたのではないのでしょうか。

そして、さらなる問いかけがありました。「そんな未来であなたが付き合いたい人は、どんな態度や振る舞いをしている人でしょうか？」

どんな人と付き合いたいのかと問われると、なぜか顔がほころぶ参加者の皆さん。そしてここから、ワークショップの内容は旧県美の施設としてのあり方へと移っていきました。「旧県美がもし人だったら、どんな態度や振る舞いですか？」「そんな旧県美さんは、どんな性格をしているのでしょうか？」

そしてさらに、たたみかけるように問いかけが。「そんな性格を持つ旧県美さんは、どんなことを大切にしているのでしょうか？」

旧県美の人格＝施設のあり方

誠実であること、楽しいこと、面白いこと、おもしろいこと。懐が深いこと、相手を尊重すること、実験的で革新的であること。たくさんの言葉のなかから、自分たちが求める旧県美の人格＝施設としてのあり方が浮かび上がってきました。そして最終的に出されたのが、各チームがまとめ上げた10のあり方です。

皆さんの言葉から浮かび上がってきたのは、ハード面とソフト面両方における、旧県美の新たな姿でした。この10の成果に至るまでにそれぞれが悩みながら模造紙に書いた言葉の数々にも、たくさんの思いが詰まっていた。これらを紐解き、編み直して、旧県美の大きな枠組みにしていきます。

その他、今回のワークショップでは、参加者からワークショップへの疑問や質問も寄せられました。それらも踏まえてアーツセンターあきたは、10月までに運営管理計画のラフスケッチを描いていきます。次回はそれを参照しながら、専門家を交えて旧県美を存分に使った企画を作り出していきます。参加者の思いが専門的な知識の上でどんな企画を練り上げていくのか。ぜひご期待ください。

＼メンターのご紹介／

ワークショップには、夢の企画に対して専門的立場からアドバイスして、より現実に近づけてくれるメンターに参加していただいています。旧県美を舞台にした企画と一緒に作り上げていきましょう。



鎌田 光明

(秋田工業高等専門学校助教・博士(工学))

男鹿市生まれ。「空間計画」を専門として、建築・都市空間の持つ雰囲気や意識を人間を主体とした科学的・客観的な手法を用いて研究。特に秋田県内を対象にした研究・デザイン提案に一貫して取り組む。著書に「建築・都市計画のための空間学事典」など。日本建築学会、人間・環境学会所属。



東海林 諭宣

(株式会社 See Visions 代表取締役)

仙南村(現美郷町)生まれ。大学在学中にデザインを学び、ウェブ、インテリア、グラフィックデザイン等の制作を通してデザインのトータルディレクションの重要性を確信。2006年株式会社 SeeVisions 設立。エリアリノベーションの手法で、亀の町ストア、カメバルなどを展開する。



石井 宏典

(秋田市地域おこし協力隊)

北海道函館市生まれ。国際教養大学卒業後、三井住友銀行を経て学生の起業を支援するNPO法人ETIC勤務。2017年から秋田市地域おこし協力隊として、秋田で起業を目指す若者の支援を行う。

次回以降は…

あなたの夢を実現する企画をつくっていきます

芸術、文化、歴史にとどまらず、市民が多彩な活動をしていく場としてどんなことができるのか。専門家陣のアドバイスを受けながら、あなたの実現したい夢の企画を考えていきます。

**第3回 10/27(土) 運営管理計画ラフ案の共有と磨き上げ
夢を実現する企画づくり**

第4回 11/18(日) 夢を実現する企画づくりのつづきと発表

場所：山王一丁目食堂

秋田市山王1-1-1 秋田市役所2F

時間：各回 10:00～15:00

休憩約1時間。昼食は各自でご準備ください。

申込：参加をご希望の方は、下記の情報をNPO法人アーツセンターあきたまでご連絡ください。

①お名前 ②年齢 ③電話番号 ※申込受付は先着順とさせていただきます

NPO法人アーツセンターあきた 〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 アトリエももさだ内
TEL: 018-888-8137 FAX: 018-888-8147 mail: info@artscenter-akita.jp (受付時間 平日 9:00～17:00)



振り返りや懇親会にも
ぜひ参加ください！



託児希望の方は
ご相談ください！



むかし懐かしの
写真もあります



おかしと飲み物も
ご用意しております